

地域未来創造会議（荒尾・玉名地域）議事概要

- 1 日時 令和8年2月9日（月） 16:00～17:40
- 2 場所 司ロイヤルホテル 2階 鳳凰の間
- 3 出席者
 - (1) 市町村長
浅田荒尾市長、藏原玉名市長、前田玉東町長、石原和水町長、佐藤南関町長、田成長洲町長
 - (2) 県議会議員（オブザーバー）
岩中議員、内野議員、城戸議員、坂梨議員、前田議員
 - (3) 県
 - [本庁]
木村知事、富永企画振興部長、藤由市町村課長、佐藤地域振興課審議員、松田交通政策課課長補佐 他
 - [地域振興局]
永友県北広域本部長、坂口玉名地域振興局長、増馬玉名地域振興局次長 他
- 4 議事内容
 - (1) 令和6年度地域未来創造会議のフォローアップ状況について
 - (2) 地域コミュニティ交通の充実に向けた取組について
 - ①各市町の現状
 - ②ワークショップ等の報告
 - ③意見交換

結果概要

会議では、路線バスや乗合タクシーなど地域公共交通の現状や将来のあり方に関することが話し合われた。主な意見は次のとおり。

- ・ 買い物や医療機関へのアクセスをより充実させるため、乗合タクシーの制度の周知拡大やオンライン予約による割引の導入など利用者を増やす必要がある。
- ・ 公共交通事業者の赤字は、市で補填しているが、市の財政面においても大きな課題。国庫補助の確保等により財政負担を軽減していきたい。
- ・ 既存のバス路線を守るとともに、小学校の再編に伴う放課後児童クラブの集約化など新たな交通体系を検討する必要がある。今後、学校のあり方等を含め乗合タクシーとスクールバスの連携について検討が必要。
- ・ 現在の乗合タクシーは、乗り継げば移動は可能であり、路線バスの補完としては十分。ただし、利用者のニーズはどんどん高まっており、交通事業者に了承してもらえなければ、利用者が求める利便性の高い地域公共交通は提供できない。
- ・ 路線バスの利用者が少なく、路線の廃止も進んでいる。路線バスの通学定期券補助制度を導入し、利用者増加に向けた施策を進めている。特に路線バスが少ない地域からは、子ども議会やタウンミーティングにおいて、スクールバス導入等の要望があがっている。
- ・ 町立病院のマイクロバスの空き時間を活用し、高齢者等の外出支援の実証運行を行ったが、利用者は少なく住民のニーズはそれほど高くない。まずは乗合タクシーの利便性を向上させていきたい。

- 荒尾市、玉名市、玉東町、長洲町には、JRがあり利便性が高い。路線バスも減っている和水町、南関町に対してどう支援するかが重要ではないか。
- 広域的なコミュニティ交通を管内に走らせるのであれば、現実的なニーズ（数値）を把握する必要がある。
- 今年度から、荒尾市のタクシー事業者に理解いただき、ゆめタウンシティモールと有明医療センターへ直接乗り入れができるようになった。しかしながら、要望に基づいて実際に運行しても、利用が少ないということもあるので、慎重に検討する必要がある。
- 乗合タクシーが乗り換えせずに拠点病院へ直接乗り入れできるよう、県や管内市町、タクシー事業者と協議・連携する必要がある。
- 資料にある県の地域公共交通計画の施策・事業に、タクシー事業者が記載されていない。県と市町がタクシー協会等と歩み寄り、協議していくことで課題解決に近づければいい。
- 拠点病院へ直接乗合タクシーで行くことが難しいことを理解した。来年度は地域の輸送資源フル活用等の取組みにより課題解決に向けた支援を行っていく。
- タクシー事業者は各種公共交通の一つとして位置付けており、県の交通計画にも記載している。タクシー事業者とも連携しながら、各地域の実情に合った交通モードが構築できるよう来年度以降地域と一緒に議論したい。
- 県立高校の生徒数が厳しい状況にある。地域の子供たちが県立高校に通学できる環境整備が必要。
- 私立高校が無償化となると、県立高校はやはり厳しい状態となる。高校魅力化の中で地元から声を上げ議論を深めていただきたい。

今回の会議内容を基に、引き続き県と市町村で事務的に今後の展開等を検討していく。